

# 馬頭最終処分場建設検討委員会 第1回議事録

---

## 1 日時

平成25年10月21日（月）14:00～15:50

## 2 会場

ニューみくら 208会議室

## 3 次第

- ・ 開 会
- ・ あいさつ
- ・ 委員紹介
- ・ 委員長選出
- ・ 議 題
  - (1) 馬頭最終処分場整備に係る主な経緯について
  - (2) 事業区域の概況について
  - (3) 今後の進め方について
    - 基本設計
    - 環境影響評価
- ・ その他
- ・ 閉 会

## 4 出席者（敬称略）

- (1) 委 員 青木委員、伊藤委員、柿井委員、小金澤委員、長尾委員、堀委員  
(小峯委員、藤吉委員 欠席)
- (2) 事務局 櫻井部長、野澤参事、北村室長、武藤主幹、加藤室長補佐(総括)、外 馬頭処分場整備室職員、町環境総合推進室職員、コンサルタント職員

## 5 配布資料

- 資料1 馬頭最終処分場整備に係る主な経緯
- 資料2 事業区域の概況
- 資料3 今後の進め方について ～基本設計～
- 資料4 馬頭最終処分場に係る事業実施のための環境影響評価 実施計画書（案）

## 6 議 事

(開会告知)

- ・ 加藤室長補佐(総括)により開会告知、委員会進行

(櫻井部長あいさつ)

- 馬頭最終処分場は、県内初の管理型産業廃棄物最終処分場として、整備を計画しているものです。
- 平成16年の事業実施表明から10年、この間、基本設計や環境影響評価を経て、必要な用地の取得に努めて参りました。
- しかしながら、早期着工への周囲の期待や用地交渉の長期化を踏まえ、本年4月に事業計画の変更を発表し、最終処分場の整備事業を再スタートしたところであります。
- この委員会は、処分場の整備を進める上で、基本設計や環境影響評価等について、専門的見地からの技術的なアドバイスをいただくために開催するもので、関係する専門分野の皆様にお集まりいただきました。
- 本日は、初めての開催ということで、これまでの経緯や事業区域の概況、並びに基本設計と環境影響評価の今後の進め方などについて、事務局から御説明させていただきます。忌憚のないご意見、アドバイス等をいただければと考えております。
- なお、この委員会は、原則公開で進めてまいりたいと考えております。御理解・御協力をお願いいたします。
- 馬頭最終処分場は、県の長年の課題であり、安全で安心できる処分場をめざして、私どもも町と協力しながら、全力で取り組んでまいります。
- 最終処分場の整備に向けて、委員皆様の御協力をよろしく申し上げます。

(委員紹介)

- ・ 出席者委員6名を紹介
- ・ 事務局職員を紹介

(委員長選出)

- ・ 委員互選により、柿井委員が委員長に選出される。

(議 事)

- ・ 議題1「馬頭最終処分場整備に係る主な経緯について」 説明者 北村室長(資料1)
- ・ 議題2「事業区域の概況について」 説明者 武藤主幹(資料2)
  
- ・ 伊藤委員 : 水質調査位置の太郎橋と更正橋の位置は?
- ・ 事務局 : 地図上で位置を説明

- ・議題3「基本設計の進め方」 説明者 荒井主査（資料3）
- ・議題4「環境影響評価の進め方」説明者 齋藤副主幹（資料4）
  
- ・堀委員 : 資料3の参考資料において処分場の埋立方式の説明があったが、一方、本年8月から基本設計・環境影響評価の業務委託を実施している。どのような仕様で発注しているのか？発注条件により設計が制約されることがあるのではないかな？
- ・事務局 : 発注はオープン型で行っています。先進事例の検討を行い方向性が決まった段階で必要が生じれば契約変更を行います。
- ・堀委員 : 発注仕様書の資料を提供していただけるか？
- ・事務局 : 後日、資料提供します。
- ・伊藤委員 : 資料4の38ページの工程表の猛禽類に線が無い。7ページでは猛禽類の調査が8月までなので、工程表は10月から始まっているので表示されていないと判断しているが、工程表だけ見ると猛禽類の調査を実施していないように見える。実施しているのでわかる表記方法にした方が良い。
- ・事務局 : 資料に表示するように対応します。
- ・柿井委員長 : 資料3の5ページに北沢地区の不法投棄物の内容が書いてあるが、埋立てる物は受入れ基準に適合する物に限るということか？
- ・事務局 : 北沢の不法投棄物は、埋立基準に適合する物のみを処分場に埋立てます。また、破碎施設を設置する予定であり、受入基準以下に破碎し埋立てます。
- ・柿井委員長 : 適合しないものは北沢地区に投棄したままになるのか？
- ・事務局 : 基準に適合しない物は、外部の中間処理等へ委託します。
- ・柿井委員長 : 埋立地の方式としてオープン型の事例が多いが、県内で一番大規模な施設はどの程度の規模でどこか？
- ・事務局 : 現在手元資料が無いので後日説明します。
- ・柿井委員長 : クローズド型の処分場として、エコパークかごしま80万m<sup>3</sup>が来年度完成と聞いている。これ以外にクローズドで同等規模の処分場は無いと考えて良いか？
- ・事務局 : 現在稼動中で一番大きいのが、北海道の十勝一般廃棄物処理場30万m<sup>3</sup>が平成23年度から稼動しています。また、熊本県で40万m<sup>3</sup>の管理型最終処分場クローズド型が着工しています。
- ・柿井委員長 : 従来の埋立容量の80万m<sup>3</sup>をクローズドにすると全国で一番大きい事例になる。オープン、クローズドではなくその中間型として移動式の屋根や半分クローズド等いろいろ考えられると思う。タイプ別の特徴を教えて欲しい。
- ・事務局 : 基本設計に着手したばかりですので、第2回目に従来のオープン型に加え、クローズド型を含めた比較検討など、詳しい情報を提供します。
- ・青木委員 : 資料4の25ページの植物に関する調査地点は前回調査位置と同じか。それとも

今回新たに加わった箇所か？

- ・事務局 : 調査地点は、代表的な地点を新たに選定した箇所ですが、一部前回と同じ箇所も有ります。
- ・青木委員 : 以前の調査から 10 年経過しており変化している可能性があるため、過去の調査と比較できるように前回と同一箇所で調査を行い、それに加えて新たな箇所を追加の方が良いと思う。27 ページの鳥類の調査位置と 31 ページの過年度調査位置でラインセンサスの位置が変わっている。できれば同じラインも調査をして欲しい。
- ・事務局 : それを踏まえて検討します。
- ・小金澤委員 : 環境影響評価の項目で放射性物質に関する項目が無いが、どのように考えているのか？
- ・事務局 : 計画地周辺の放射線量は低いので、環境影響評価の中に入れていない。処分場の稼動前後を考慮してデータは必要に応じて計測します。
- ・小金澤委員 : 環境影響評価の項目には含まれていないが、放射線の影響を抜きにはできない。放射性物質濃度について、住民から質問が来た際にきちんと回答できるよう、現状調査を実施しておく必要がある。
- ・柿井委員長 : 産業廃棄物が対象であり、放射能は直接関係無いが、県として最低限のデータを持っておいた方が良いでしょう。
- ・事務局 : 現状調査について検討します。
- ・長尾委員 : 20 ページに地下水調査位置が記載されている。北側に北沢不法投棄現場があるが、そこから処分場に流れてくることはあるのか？3 箇所のみで把握できるのか？
- ・事務局 : おおまかな地下水の流れとしては、東から西に流れています。
- ・長尾委員 : 北沢不法投棄現場から処分場方向に流れてこないのでは測らなくても大丈夫ということか？
- ・事務局 : 北沢の不法投棄現場では、現在も地下水調査を実施しており、地下水に問題の無い状況は確認しています。
- ・柿井委員長 : 資料 2 の位置図に北沢の不法投棄現場があるが、間に山などがあり処分場側に流れてこないか？
- ・事務局 : 地下水は図面の右側から左側（東から西）に流れています。
- ・柿井委員長 : 集中豪雨などが問題になっているが、備中沢ほどの程度の沢か。豪雨の際はどのようなになるのか。過去の状況から変化しているかを教えてください。
- ・事務局 : 川の流れは過去と変わっていない。川幅 1m 程度の小川であり、中流で平常時 450m<sup>3</sup>/日程度、30mm の降雨で 14,000m<sup>3</sup>/日の流量である。
- ・柿井委員長 : 前回の環境影響評価では流量に関して問題ないと判断したということか。
- ・事務局 : そうです。

- ・柿井委員長： 安全・安心で効率の良い処分場の設計を検討していくために、処分場の設備に関するトラブルの事例や覆土等における新たな知見、埋立手法（一括、分割）の事例等を調べるのが有効と思われる。
- ・事務局： 整理して資料を作成します。
- ・伊藤委員： 今回の基本設計・環境影響評価は、北沢不法投棄と切り離して実施するのか？
- ・事務局： 北沢とは切り離して実施する。
- ・伊藤委員： 北沢は、ごみの搬出時点で受入れ可能な物だけを今回受け入れると考えて良いか？
- ・事務局： そうです。
- ・柿井委員長： 北沢の処分は始まっているのか？
- ・事務局： 処分は実施していません。現状のままです。
- ・委員： 埋立方式は、埋めたごみに即日覆土を掛けていくセル方式で進めるのか？
- ・事務局： そうです。
- ・伊藤委員： 資料4の巻末資料1に1,4-ジオキサンを新たに調査するとあるが、平成27年は1,4-ジオキサンのみ実施するということか
- ・事務局： 追加された1,4-ジオキサンのみ実施します。
- ・伊藤委員： その他のデータは、これまでのデータを使用するということか。
- ・事務局： そうです。
- ・小金澤委員： 資料4の6ページの哺乳類の項目で任意踏査を平成25年度から実施することになっているが、10年経つと動物相が変わるので過年度の成果と同様とは考えられない。イノシシの増加、アライグマやハクビシン、クマやシカが入っている可能性もあるのでセンサーカメラによる調査をする方が良い。
- ・事務局： 環境影響評価については、本日委員の皆様からの意見や助言を参考に「実施計画書」を策定いたします。

## 7 その他

- ・ 次回の検討委員会の日程は、12月下旬から1月上旬で調整中ですので、後日連絡します。

—以 上—